

図表 63 : 医療センターの現在地

- 現在は小倉都心部に所在し、公共交通機関も発達していることから患者にとっての利便性は極めて高い



■ 現在の立地の特徴

- ・ JR小倉駅から南南西に約900m (徒歩12分)
- ・ 小倉北区内であれば自家用車で約15分以内、小倉南区、門司区からは都市高速道路使用で約30分以内と利便性が高く、駐車場(320台)は、午前中に満車の状態が発生
- ・ JR小倉駅直結のモノレールで約2分
- ・ 市立医療センター前のバス停には、小倉南区、八幡東・西区、門司区方面からのバスが停車

- 利便性が高い一方で、現在地は北九州市防災ハザードマップにおいて河川氾濫時に3～5mの浸水の可能性があるとしてされている
- 非常用発電装置等の設備が地下1階に配置されており、大規模な河川氾濫等の際は電源喪失のリスクがある

北九州市防災ハザードマップ(R6.2.1公開)から抜粋



■ 災害対応における問題点

- ・ 非常用発電装置等の設備、機械室、ボイラー室、防災管理室等の設備がいずれも地下1階に配置されている
- ・ 現状の対策として止水版や排水ポンプ等を設置しているが、十分な対策とはいえない
- ・ 大規模な河川氾濫等の際は電源喪失のリスクがあり、これらの設備の移設は建替以外では不可能

図表 64：現地建替についての調査

- 現地での建替えについて、令和4年度に調査を実施
- 本館の改修は難しいため建替え、別館は大規模改修を行い活用する（一部建替え、一部改修）

■ 本館の改修が困難である理由

- ・ 現在地下1階に配置されている非常用発電装置等の設備、機械室、ボイラー室、防災管理室等の移設は、大規模改修では対応不可能（建替以外では不可能）
- ・ 手術室の増設や高度化・大型化する医療機器に対応した手術室スペースの拡充などの医療需要の変化への対応や施設の狭隘化への対応が不可
- ・ 一般的な建物機能の回復方法である、冷温水管、給排水設備、消火設備等の全面更新を行うためには、1～2年の休院が必要となり、地域医療へ与える影響が大きい

■ 非常用電源装置等の配置状況

現在は地下1階に配置されており、大規模な河川氾濫等で浸水した場合は電源喪失のリスクがある



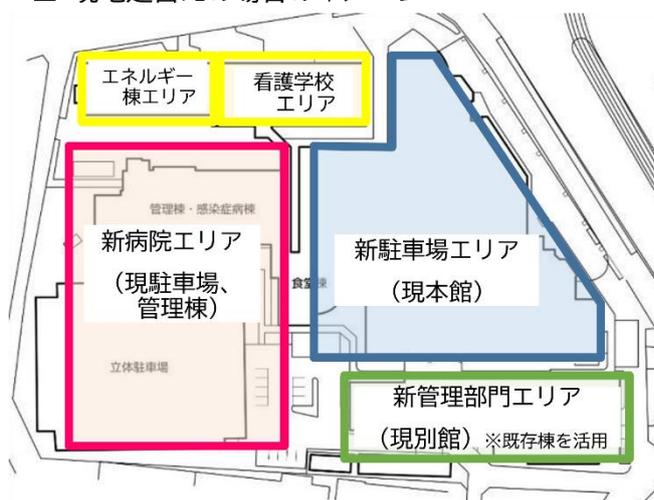
止水板の設置



非常用発電装置

- 現駐車場・管理棟部分に新病院を建設、別館は大規模改修を行い、管理部門として活用
 - ・ 工事中は一部診療制限の可能性はあるが、工期や工程を工夫することで医療提供体制を大幅に制限することなく建替えが可能
 - ・ 限られたスペースでの工事となるため、建替え工事が長期（約10年間）に及ぶ

■ 現地建替えの場合のイメージ



■ 現地建替えの課題

- ・ 工事の長期化
- ・ 工事中は一部診療制限の可能性
- ・ 新病院エリアの面積にあわせながら、必要な延べ床面積を確保するためには、高層化が必要
- ・ 建替え期間中の駐車場の確保について一定の配慮が必要
- ・ 騒音、振動の影響は不明
- ・ 既存棟(別館)は将来的に建替えが必要

図表 65 : 現地建替えと移転建替えの比較

	メリット	デメリット
現地 建替え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所が変わらず、混乱が少ない ・ 新病院建設地の確保や調整が不要 ・ 現病院は小倉都心部に所在し 利便性は高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地は浸水の可能性があるとしてされている ・ 工事期間の長期化 ・ 工事期間中に一部診療制限の可能性あり ・ 必要な床面積を確保するには高層化が 必要となる ・ 建替え期間中の駐車場の確保について 一定の配慮が必要
移転 建替え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療制限なく建替えができる ・ 災害に強い立地や構造にできる ・ 現地建替えと比較し工期は短い ・ 狭隘化へ対応した改修が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新病院建設地の確保や調整が必要 ・ 移転により患者に混乱が生じる恐れ ・ 新病院の場所によっては 利便性に対応が必要